

も たに

母谷たつりの後援会だより

平成13年10月

発行 母谷たつりの後援会
編集 岡田 孝



ごあいさつ

謹啓

澄みきった星空に三日月とすず虫の鳴き声が似合う季節となり、今年の猛暑が嘘のように朝晩はすっかり冷え込んで、市内北部では山々が色づきはじめ、深まり行く秋の訪れを感じております。皆様方におかれましては如何お過ごしでしょうか？

さて、平成13年第3回広島市議会定例会は9月10日召集告示がなされ12日間の日程で9月17日開会いたしました。

冒頭、9月11日、米国ニューヨークの世界貿易センタービルやワシントンの国防総省等を襲った米中枢同時多発テロは、一瞬にして多くの善良な市民、国民の命を奪うという断じて許すことのできない暴挙であり、広島市議会としても全会一致で決議文を採択いたしました。この中には日本人犠牲者も数多く含まれており、米国をはじめ世界各国はこのテロ事件を新しい形の戦争として受け止めています。同様のテロが、今、日本においていつ発生しても不思議ではないという危機感をもって全ての警備や体制を整えておく必要があると思います。「戦争の世紀を越えて21世紀こそは平和の世紀を」と願う世界の人々の夢と希望を打ち砕くこの行為は如何なる理由があろうとも理解することはできないのであります。

日本は国際社会と一致協力してこの問題の解決にあたり、テロ根絶に向けて主体的な努力と協調を求められていると思います。

決議文採択の後、秋葉市長は今定例会に一般会計補正予算案等の2予算案と条例案8件、その他の議案7件の併せて17件の議案を提出している旨説明いたしました。

この中で補正予算は(1)道路、街路整備、下水道整備などの国庫補助の内定に伴うもの、(2)3.24芸予地震による災害復旧費用、(3)大阪の池田小学校で発生した児童、教諭殺傷事件後の緊急対応策として学校や保育所等に防犯センサーやモニター付きインターホンの設置、(4)出島地区のメッセ・コンベンション等交流施設の用地取得に必要な債務負担行為の設定などを行った結果、今回の補正予算額は、

53億8,740万4千円となり補正後における全会計の総予算規模は1兆1,232億3,436万8千円になると説明いたしました。

なお、緑井駅周辺地区市街地再開発事業に対し、県市で7億円づつ今定例会に補正予算を計上する予定でありましたが、開会直前の9月14日、核テナントである大手スーパーマイカルが民事再生法の適用申請を行い、同日付で

保全処分が決定されたことに伴い、今議会での予算計上は行わないことになりました。

また、予算以外の議案としては広島市男女共同参画推進条例なども上程され、常任委員会審査を経て9月28日最終日、全て原案可決されました。

今回の議会における最大の焦点は出島地区のメッセ・コンベンション等交流施設の用地取得に関する債務負担行為の設定についてであります。皆さんも新聞紙上等でご承知のことと思いますが、あの「メッセ・コン問題」であります。

この計画はそもそも昭和63年(1988年)に旧運輸省から国際コンベンションシティの指定を受けたことにより平成元年度(1989年)から平成12年度(2000年)までの第3次広島市基本計画に位置付けられているもので経済情勢が右肩上がりが続いていたバブル期当時と現在ではその必要性および財政状況は大きく変化をしているにもかかわらず114億9,030万円を投じて広島県から土地開発公社を通して購入しようというものです。その後、さらに平成16年度からは、約250億円をつぎ込んで施設を建築することになっており、ただ単に広島県との約束を履行するため買い取るというだけの理由で施設の規模や採算性、その必要性について十分な説明と議論を尽くさずまま債務負担行為の設定を行ったことは112万広島市民に対する重大な背信行為であり背任行為であるといっても過言ではありません。このメッセ・コン用地のすぐ隣の工区では広島県が産業廃棄物処理場の建設を計画しており国際会議や大規模見本市の会場場所として現状ではとても相応しいとは言えませんし、アクセスも不十分であると言わなくてはなりません。

港湾の埋め立ては用途目的を決定してからでないと埋め立て出来ないことになっており、財政健全化計画の最中にこのずさんな計画や判断が、この後、施設の建築に、目途が立た



問題のメッセ・コン施設建設予定地(出島第1工区)

なければこの土地は宙に浮いてしまうことになるのです。なぜなら他の用途に変更しようとする場合、埋め立て完成から10年間は用途の変更ができないことになっているからです。

必要性、採算性、財政面、周辺の環境面など、さまざまな角度からどのように考えてみても広島市の説明は不十分であり先見性、信憑性に乏しいといわざるを得ません。

以上のことから私は、同志6名とともに一般会計補正予算第84号議案のうち、この「メッセ・コン問題」に関し、債務負担行為の設定を削除する修正案を議案として提出いたしました。今回、この議案は原案可決となりましたが、このことは広島市議会の良識と見識を問われた重要な議会であったと思います。原案に賛成した大多数の議員も内心は、心良しとししないのか釈然としない雰囲気が議場を包んだことから証明されるように、この行動は単に一石を投じただけでなく、議会に大きな波紋を投げかけたことは間違いありません。この問題は今後さらに議会で白熱していく様相を呈しており、皆さんも是非注目してください。いずれにしてもこの採決が正しかったかどうかはさまざまな議論をよび答えが出るでしょう。10年後、巨費を投じたこの土地がどのような形で活用されているのか目が離せません。

地球上には1年中夏、1年中冬という国や地域もあるのに春夏秋冬それぞれの季節を与えられた日本はなんと幸せな国でしょう。せめて深まり行く秋を山と空と風に感じながら心を満たして参りたいと思います。今後益々の努力、精進を重ね皆様方の期待に応えて参る所存でございますので、さらに御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

謹白
広島市議会議員 母谷 龍典

いい汗流そう!! いい笑顔つくろう!!

広島高速4号線 (広島西風新都線)の概要

広島都市圏では、山陽自動車道、中国横断自動車道などの高規格幹線道路の整備に対して都市内の道路網の整備が遅れています。中国四国地方の中枢都市である広島市の都市機能をより高めるため、都市交通の高速性、定時性を強化する自動車専用道路網の整備が急務となっています。

広島高速4号線(広島西風新都線)は、広島市の都心部(西区中広町一丁目)と「西風新都」の中心部(安佐南区沼田町大字大塚)をトンネルと橋でダイレクトに結ぶ、約4.9kmの自動車専用道路です。

この道路の供用開始(平成13年10月2日開通)により、都心部と山陽自動車道五日市インターチェンジを中心とする市北西部地区の連絡が格段に向上し、国道2号西広島バイパスや国道54号祇園新道などの交通混雑の緩和が図られるとともに、広島都市圏の道路交通の高速性・定時性が一段と強化されることとなります。

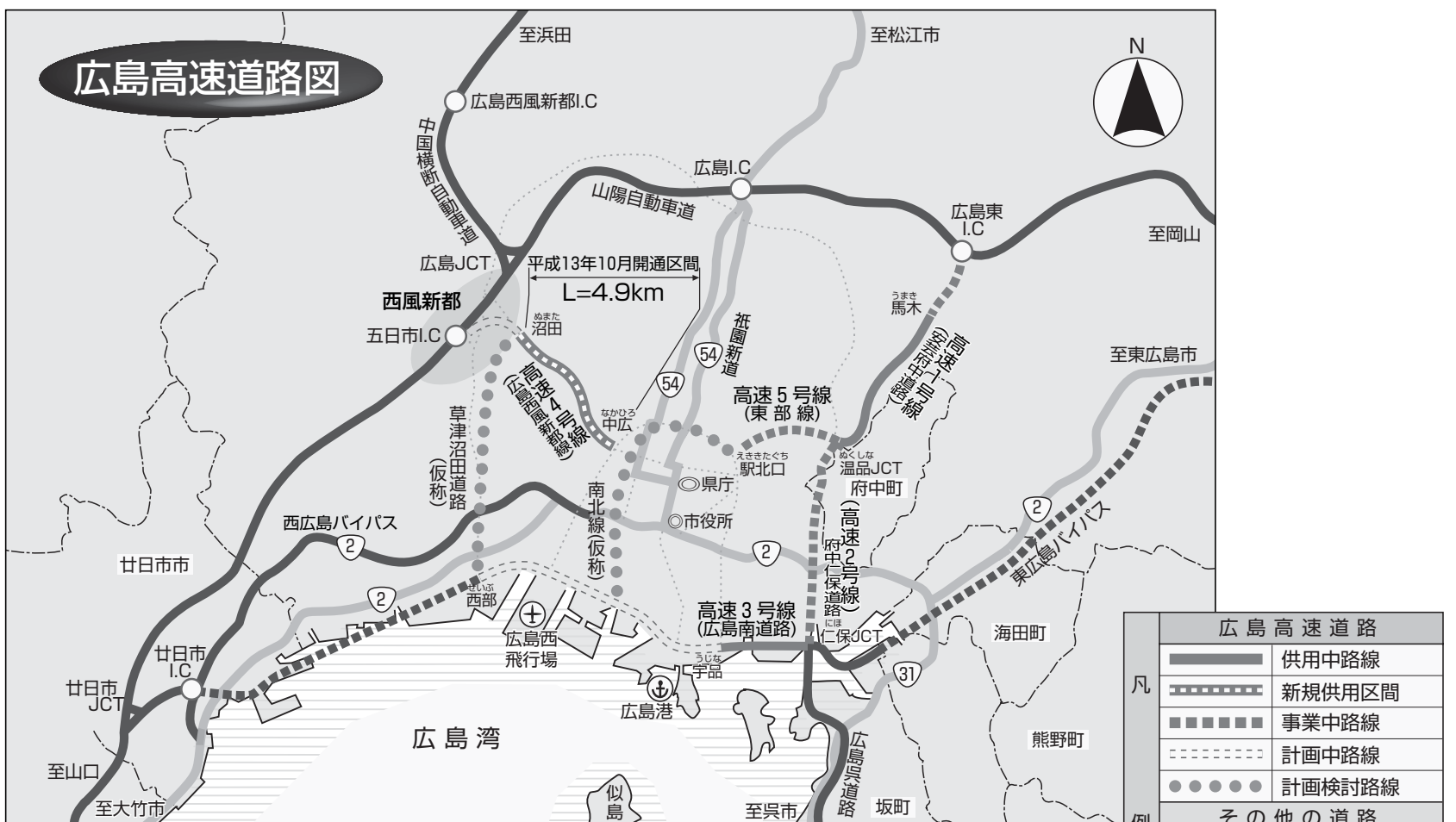
また、今後は、西風新都内の外環状線をどのように延伸させるのかをはじめ、佐伯区北部地域を幹線道路でどのように連絡するかなど将来に向けてこの地域における道路交通網のマスタープランを作成する必要があると考えています。



西区中広町側から見た広島西大橋



安佐南区沼田町側から見た西風トンネル入口



広島高速道路の整備については、広島高速1号線(安芸府中道路)、高速2号線(府中仁保道路)、広島高速3号線(広島南道路)、広島高速4号線(広島西風新都線)、広島高速5号線(東部線)の5路線を基本計画として平成20年代初頭までに段階的に供用を行うこととしています。とりわけ佐伯区をはじめとする、広島都市圏西部の交通渋滞緩和のためには、高速3号線の早期完成に向け、さらに努力する必要があると考えています。

また、東部線(Ⅱ期)、南北線(仮称)、草津沼田道路(仮称)の3路線については、計画整度の高まりに応じて整備に取り組むこととしています。